

「私と新聞」親子作文コンクール

小学 大関さん（若松）

最優秀賞

中学 菊地さん（白河）

読む 知る 学ぶ E! 新聞

福島民報社が主催する第九回「私と新聞」親子作文コンクールの入賞作品が決まった。親子賞の最優秀賞は小学生の部で大関幸（こ）さん（㉗）と母美華（こ）さん（㉘）の作品が選ばれた。

一時半から、福島市の民報ビルで行われる。た。最優秀賞と優秀賞の表彰式は十六日午後（21面に関連記事と入賞作品紹介）

新聞くしゃくしゃ

祖父母元気な証し

大関幸さん

「学校から帰って来て、くしゃくしゃになった新聞を見ると、『今日もじいちゃん、ばあちゃん元気だった』とわかります。小学生の部最優秀賞の大関幸さんは同居の祖父甚章（じんしょう）さん（㉙）、祖母貞子（ていこ）さん（㉚）との紙面を通じた触れ合いをつづつた。

新聞をじっくり読んで形跡がない日は祖父のどちらかが体調を崩し、病院に出掛けていることが多い。作文には、くしゃくしゃの紙面を見た時の安心感、記事を話題に祖父母と話す楽しさを込めた。美華さんは幸さんの作文を読んで自らの父相原義一（よしかず）



新聞を通じた家族の触れ合いを作文に書いた大関幸さん（手前右から2人目）と母美華さん（右）。手前左から祖父甚章さん、祖母貞子さん、後方左から兄宙さん、父拓さん

さん（㉛）西会津町に目を通す「朝の定番シーン」がずっと続いてほしいとの願いを書いた。受賞の知らせに、甚

ちゃん新聞をくしゃくしゃにしたい」と話してほしい」と望んだ。美華さんは「興味のある記事を探すキラキラした目を持ち続けたい」と語った。

挑戦への力に 菊地未柚さん



菊地未柚さん



菊地美希さん

「ふくしま復興大使」としての訪問活動などに取り組んでいる。努力したことを記事で多くの人に知ってもらえることがうれしい」と話し、新たな挑戦を見据える。

中学生の部最優秀賞の菊地未柚さんは「チャレンジのかけ橋」と題し、自らの活動が新聞に載ることで挑戦する力を得ているとの思いをまとめた。創作ミュージカルや

美希さんは厳しかった祖父がコンクール入賞、学校の話題など孫に関する記事をそっとスクラップしていた思い出を書いた。今は美希さんがわが子の記事を丁寧に取り扱いてお